

Weekly Oil Market Review 22第10号

2022年(令和四年)

6月10日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター

電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422

〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カシドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

概況

5/26~6/1のNYMEX・WTI先物市場は、114.09~115.26ドルの範囲で推移した。

6月2日は、OPECプラスが閣僚会議をWEB開催、7・8月の減産緩和(増産)について、従来の43.2万b/dから65.8万b/dへの拡大を決議したが、経済制裁によるロシアの減産幅や事前の観測に対して規模が小さすぎるとして、継伸した。この日発表の米国原油在庫は予想を上回る510万バレルの減少、ガソリン在庫の減少も値上がり要因となった。7月限の終値は前日比1.61ドル高の116.87ドル。

週末3日は、前日のOPECプラス合意の増産拡大が小さく、ロシアの減産に見合わないとして、3日継伸した。この日発表の堅調な米国雇用統計や前日の米国石油在庫の減少、さらに、近日中に予想される米国利上げもマイルドな範囲内に止まるとの観測も、値上がり要因となった。7月限の終値は前日比2.00ドル高の118.87ドル。

週明け6日は、最近の石油需給ひつ迫観測や7月のサウジアラビア向け調整金の引き上げ報道で、一時値上がりしたもの、利益確定売りに押され、4営業日ぶりに反落した。7月限の終値は前日比0.37ドル安の118.50ドル。

7日は、中国における都市封鎖解除に伴う経済回復期待やゴールドマンサックスの先行き原油価格堅調との見通し発表で、反発した。米国株式市場の値上がりも上昇要因だった。ただ、世界銀行発表の今年の世界経済成長見通しの下方修正(2.6%増、前回見通し比1.2ポイント減)や米国金利の大幅引き上げ観測が上値を抑えた。7月限の終値は前日比0.91ドル高の119.41ドル。

8日は、先日来の中国の経済回復期待に加え、ノルウェイ

の油田労働者ストライキ、国際原子力機関(IAEA)のiran原子力施設での監視妨害発表で、継伸した。先週末の米国原油在庫は増加したものの、ガソリン在庫は予想外の減少となり、売り買いは交錯した。7月限の終値は、前日比2.70ドル高の122.11ドル。

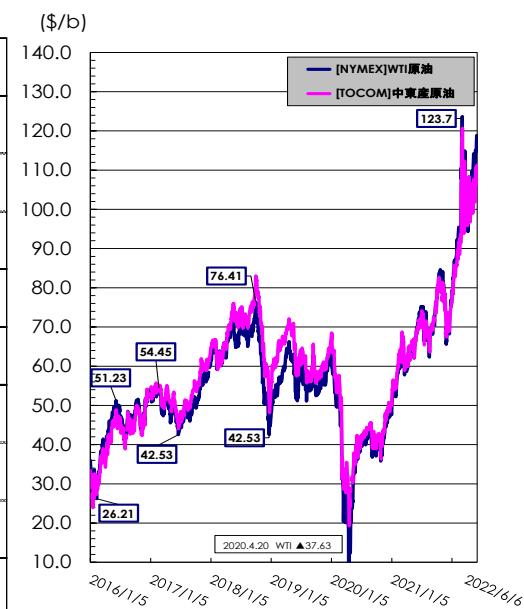
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(7月渡し)は、5月26日~6月1日の間、109.90~117.50ドルの範囲で推移した。6月2日110.20ドル、3日113.10ドル、6日115.50ドル、7日115.60ドル、8日116.50ドルで推移した。

為替は、5月26日~6月1日の間、127.02~128.93円の範囲で推移した。6月2日130.06円、3日129.83円、6日130.84円、7日132.24円、8日132.81円で推移した。

財務省が6月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、5月中旬の原油輸入平均CIF価格は、87,334円/klで、前旬比249円高、ドル建て107.16ドルで前旬比0.85ドル安、為替レートは1ドル/129.57円。

そのような中で、6月6日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.6円の値上がり、軽油も同1.6円の値上がり、灯油は16円の値上がり(18kgベース)であった。ガソリンは8週ぶりの値上がり、軽油も8週ぶりの値上がり、灯油は7週ぶりの値上がりであった。ガソリンの全国平均価格は169.8円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は38.8円となった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/29 ~ 6/4	2,642	▼ -91	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	68.6	▼ -2.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/4	9,858	▲ 76	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/6	111.26	▲ 2.96	▲ 42.7
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	6/6	118.50	▲ 3.83	▲ 49.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月中旬	107.16	▼ -0.85	▲ 41.60
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	87,334	▲ 249	▲ 42,453
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	129.57	▼ -1.39	▼ -20.73
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/6	131.84	▼ -3.82	▼ -21.27



ウィークリー オイル マーケット レビュー 22第10号

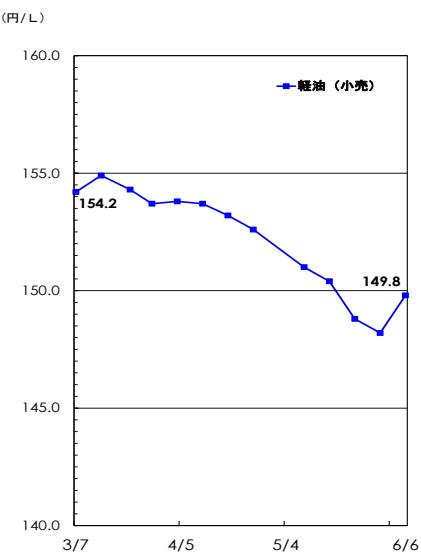
ガソリン		今週	前週比	前年比
需給				
需給	生産	5/29 ~ 6/4	842	▲ 43
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	859	▲ 108
	輸出	"	42	▲ 42
	在庫	6/4	1,617	▼ -59
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/31 ~ 6/6	77.2	▲ 4.3
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/31 ~ 6/6	78.1	▲ 3.3
	(TOCOM/中部)	6/6	74.0	▲ 1.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/6	169.8	▲ 1.6
				▲ 16.9

※業転、先物価格は税抜き価格

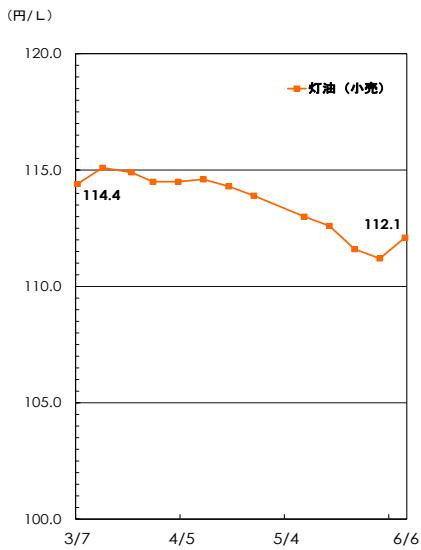


軽油		今週	前週比	前年比
需給				
需給	生産	5/29 ~ 6/4	769	▲ 115
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	662	▼ -61
	輸出	"	281	▲ 155
	在庫	6/4	1,246	▼ -174
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/31 ~ 6/6	77.4	▲ 3.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/31 ~ 6/6	90.6	▲ 3.5
	(TOCOM/中部)	6/6	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/6	149.8	▲ 1.6
				▲ 16.7

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週	前週比	前年比
需給				
需給	生産	5/29 ~ 6/4	92	▼ -16
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	126	▲ 17
	輸出	"	0	▼ -27
	在庫	6/4	1,265	▼ -34
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/31 ~ 6/6	77.1	▲ 4.1
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/31 ~ 6/6	76.2	▲ 2.1
	(TOCOM/中部)	6/6	74.1	► 0.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/6	112.1	▲ 0.9
				▲ 18.5



■ 関連情報

1 海外/原油

6月8日のNYMEX先物原油は、最近の中国の都市封鎖解除に伴う経済再開期待に加え、ノルウェイにおける油田労働者のストライキ発生、さらに、国際原子力機関(IAEA)のイラン原子力施設での監視妨害発表があり、核合意再建交渉への影響や経済制裁解除の先送りの懸念の高まり、ユーロ高・ドル安に伴う原油先物の割安感で、続伸した。同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の先週末時点の米国石油在庫週報は、原油が市場予想に反する前週比200万バレルの積み増しだったが、ガソリンが市場予想に反する同80万バレルの取り崩しと、まちまちの結果で、発表直後は売り買いが交錯した。7月限は2.70ドル高の122.11ドル、8月限は2.68ドル高の119.78ドルだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年5月29日～6月4日に休止したトッパー能力は86.2万バレル/日で、前週に対して20.1万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は264.2万kLと、前週に比べ9.1万kL減少。前年に対しては23.9万kLの増加。トッパー稼働率は68.6%と前週に対して2.4ポイントの減少、前年に対しては6.2ポイントの増加となった。生産は前週に比べてガソリン、ジェット、軽油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/5.4%増、ジェット/5.1%増、灯油/14.5%減、軽油/17.6%増、A重油/20.4%減、C重油/12.9%減。今週のC重油の輸入は7.3万kL(前週比4.6万kL増)。軽油の輸出は28.1万kL(前週比15.5万kL増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、ジェット、灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は85.9万kL(前週14.3%増)と4週振りに増加した。ジェット9.3万kL(前週3.3%増)、灯油12.6万kL(前週16.0%増)、

EIAによると、6月6日時点のガソリンの小売価格は、前週比25.2セント値上がりの1ガロン4.876ドル(169.6円/ドル)、ディーゼルは同16.4セント値上がりの5.703ドル(198.4円/ドル)となった。ガソリンは7週連続の値上がり、ディーゼルは4週ぶりの値上がりになった。ガソリン価格は、過去最高値を記録した。

ベーカーヒューズ社によると、6月3日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比横ばいの574基と2週ぶりに減少が止まった。

軽油 66.2万kL(対前週8.5%減)、A重油 21.2万kL(対前週15.1%増)、C重油 18.5万kL(対前週12.9%減)。

(単位:千kL)			
	今週 (5/29 ~ 6/4)	前週 (5/22 ~ 5/28)	前週比
ガソリン	859	751	▲ 108 (14%)
ジェット燃料	93	90	▲ 3 (3%)
灯油	126	109	▲ 17 (16%)
軽油	662	723	▼ -61 (-8%)
A重油	212	184	▲ 28 (15%)
C重油	185	212	▼ -27 (-13%)
合 計	2,137	2,069	▲ 68 (3%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月4日時点の在庫はジェット、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは161.7万kL、前週差5.9万kL減。前年に対しては65.5万kL少ない。

灯油は126.5万kL、前週差3.4万kL減。前年に対しては30.6万kL少ない。

軽油は124.6万kL、前週差17.4万kL減。前年に対しては72.0万kL少ない。

A重油は67.3万kL、前週差5.1万kL減。前年に対しては10.7万kL少ない。

C重油は184.2万kL、前週差6.5万kL増。前年に対しては14.8万kL少ない。

(単位:千kL)			
	今週 (6/4)	前週 (5/28)	前週比
ガソリン	1,617	1,676	▼ -59 (-4%)
ジェット燃料	829	826	▲ 3 (0%)
灯油	1,265	1,299	▼ -34 (-3%)
軽油	1,246	1,420	▼ -174 (-12%)
A重油	673	724	▼ -51 (-7%)
C重油	1,842	1,777	▲ 65 (4%)
合 計	7,472	7,722	▼ -250 (-3.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月31日～6月6日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の原油コストは4.0円値上がりしたものと見られる。

上記コストアップに先週の補助金額36.7円を加えたコスト上昇額40.7円に、補助金38.8円(計算上42.6円になるが、35円を超える値上がり分は半額補助)が支給されることから、

次週(6/9～6/15)の元売会社の実質的な卸価格は1.9円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月31日～6月6日の製品スポット市況は、5月24日～30日平均と比べ、全ての取引・油種で値上がりした。

直近週(5/31～6/6)の陸上スポット価格平均値は、前週(5/24～5/30)比で、ガソリンは4.3円の値上がり、灯油は4.1円の値上がり、軽油は3.6円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(5/31～6/6)に、前週(5/24～5/30)比で、ガソリンは2.4円の値上がり、灯油は3.0円の値上がり、軽油は3.5円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは3.3円の値上がり、灯油は2.1円の値上がり、軽油は3.5円の値上がりだった。

(RIM) [陸上ローリー 4地区平均]	(単位:円/㍑)		
	今週 (5/31～6/6)	前週 (5/24～5/30)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	77.2	72.9	▲ 4.3
レギュラー	77.1	73.0	▲ 4.1
軽油	77.4	73.8	▲ 3.6

(TOCOM) [期近物/終値 [平均]]	(単位:円/㍑)		
	今週 (5/31～6/6)	前週 (5/24～5/30)	前週比
レギュラー	78.1	74.8	▲ 3.3
灯油	76.2	74.1	▲ 2.1
軽油	90.6	87.1	▲ 3.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/31～6/6実績値)	(単位:円/㍑)		
	油種	現物	先物
ガソリン	▲ 4.3	▲ 3.3	▲ 3.8
灯油	▲ 4.1	▲ 2.1	▲ 3.1
軽油	▲ 3.6	▲ 3.5	▲ 3.5
A重油	▲ 4.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月6日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.6円高の169.8円、軽油も同1.6円高の149.8円、灯油は18.1%ベースで同16円高の2,018円(1%ベースでは同0.9円高の112.1円)。ガソリンは8週ぶりの値上がり、軽油も8週ぶりの値上がり、灯油は7週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは41都道府県、横ばいは1県、値下がりが5県だった。全国最安値は宮城県の163.4円、その次は埼玉県の163.5円であった。他方、最高値は長崎県の181.7円だった。最も値上がりしたのは島根県(前週比4.1円高)、横ばいは高知県、最も値下がりしたのは大分県(同0.9円安)だった。

次回調査時(6/13)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(資源公表) [週動向]	(単位:円/㍑)			
	今週 (6/6)	前週 (5/30)	前週比	直近高値
レギュラー	169.8	168.2	▲ 1.6	08/8/4 185.1
灯油	112.1	111.2	▲ 0.9	08/8/11 132.1
軽油	149.8	148.2	▲ 1.6	08/8/4 167.4

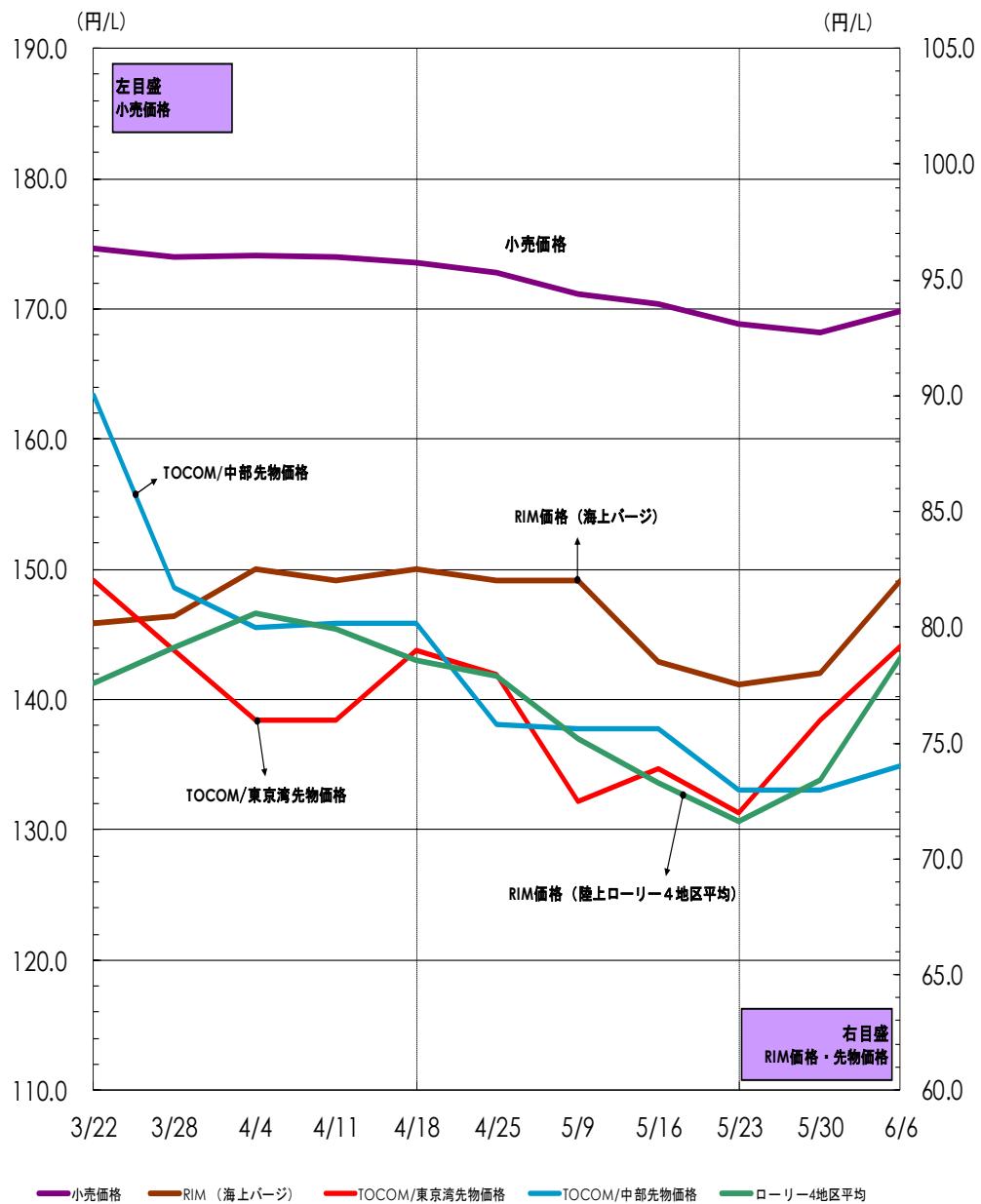
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/3/22 ~ 2022/6/6)



■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2022第11号）の公表は、6/17（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。